

72回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成15年10月)

2003.10.22

株式会社 岩手朝日テレビ

第72回 放送番組審議会議事録

1.開催日時 平成15年10月22日(水)午前11時～

2.開催場所 岩手朝日テレビ本社・会議室

3.委員の出席

委員総数 10名

出席委員数 9名

委員長	増子 義孝
委員	石井 三郎
委員	小川口 柳太郎
委員	笠川 さゆり
委員	大坊 忠
委員	高橋 真裕
委員	松本 直子
委員	宮野 裕子
委員	村田 久

欠席委員数 1名

委員	松尾 正弘
----	-------

会社側出席者名

代表取締役社長	川崎 道生
取締役営業局長	横館 英雄
常務取締役総務局長	伊東 正義
報道制作局長	星井 孝之
技術局長	佐々木 正樹
報道制作局課長	中嶋 勝則
番組審議会事務局長	辻 一成

4. 議 題

- (1) 11月の番組編成について
- (2) 番組合評
「30人31脚全国大会2003 岩手大会」について
- (3) 次回の審議会
開 催 日：平成15年11月27日(木)
合評課題：県政番組「Y u i」
- (4) その他

5. 概 要

単調になりがちな競技だが、チーム紹介や練習風景を織り込み、飽きることなく最後まで番組を見ることが出来た。

小学生と先生と父兄、三者間の信頼関係が見てとれた。学級崩壊などが危惧される昨今にあつて、本来の小学生の姿を見たような気がして気持ちが和んだ。

小学生同士が体をくっつけて何かしたり、大声で叫んだり、嬉し涙や悔し涙を流すといった、今の小学校生活では得ることが出来ない貴重な体験をこの企画を通して出来たことは評価すべきだが、番組企画でしか体験できない今の学校教育制度に疑問を感じざるを得ない。

番組冒頭で競技ルールの説明があったのが良かった。これからは30人以下の学級や小規模校も増加するであろうから、そういった問題もクリアしていくべき。

タイムを競うことばかりに重点を置くのではなく、大会参加までのエピソードなどに重点を置いた番組も良いのでは。是非、大会の番組とは別枠で制作して欲しい。

開会式の模様も流れたが、大会関係者の挨拶等は短めにし、選手宣誓など小学生に重点を置いたほうが好ましいのではないか。

6．議事の内容

- 辻事務局長 第72回放送番組審議会を始めます。
本日は、合評いただきます「小学生30人31脚岩手大会」の中嶋ディレクターが出席しておりますので、後ほど質問等ございましたら、遠慮なくしていただきたいと思います。それでは増子委員長、進行のほうお願いします。
- 増子委員長 はい、それでは川崎さんご挨拶をお願いします。
- 川崎社長 お忙しいところありがとうございます。さて弊社では、10月20日に大幅な人事異動を致しました。その中で特筆すべき点としては、社員のモチベーションを高めるために課長職を誕生させ、今回、男女3名ずつ、計6名の課長が誕生いたしました。番組関連に関しては、後ほど業務局長からお話があると思いますので、本日もよろしく願いいたします。
- 増子委員長 それでは11月の番組編成についてご説明をお願いします。
- 辻事務局長 お手元の資料をご覧ください。11月の単発番組に関しましては、系列局でロードレースが多いです。11月2日「第35回日本大学駅伝対校選手権大会」、11月16日「東京国際女子マラソン」、こちらは高橋尚子選手も出場するというので、注目です。それから11月23日「全日本大学女子駅伝対校選手権」と、11月は3回ロードレースが編成されております。
また11月9日は衆議院選挙ですので、19：54～23：30「選挙ステーション2003第1部」、メインキャスターに久米宏さん、小宮悦子さん、コメンテーターに福岡政行先生を迎えて放送します。その後23：30～26：00「選挙ステーション2003第2部」として、田原総一郎さんを中心とした討論番組を放送します。続きまして26：30～27：00に「IAT 選挙ステーション2003」を予定しております。キャスターはIATアナウンサーの伊波と山田、解説は報道制作局の片岡が担当します。その他詳細につきましてはお手元の資料をご覧ください。11月の番組編成については以上です。
- 増子委員長 ありがとうございます。質問その他ございますか。それでは番組合評に入ります。今回は高橋さんからお願いします。
- 高橋委員 評価出来る点として3点挙げます。一つは、全体を通して、スポーツや団体競技から発せられる爽やかさや高揚感が感じられて、好ましい番組であったことです。二つ目は、30人31脚は単調になりがちな競技だと思いますが、各チームの特徴やエピソード、先生や生徒のインタビューやタイムが発表になるまでの期待と不安の入り交じった表情を捉えたり、飽きさせることなく決勝まで盛り上げていく構成が良かったと思います。三つ目は、昨今、学校教育の問題が様々な面でクローズアップされていますが、今回の団体競技を通じて、先生と生徒、あるいは生徒間の信頼関係が感じられましたし、また先生のインタビューの中には心に残るコメントもありましたので、

この点も評価出来ると思います。

改善して欲しい点としては、まず、いかにして視聴者の心を掴むか、番組の冒頭の掴みの部分である開会式で、ハピネス共済会専務の挨拶が一部流れましたが、これが果たして本当に必要であったのか、むしろ選手宣誓をきちんと取り上げたほうが良かったのではないかという印象があります。それから、競技後の生徒のインタビューですが、涙ながらのインタビューが非常に目に付きましたが、涙イコール感動という安易な取り上げ方が、果たしてそこに無かったかどうか。十分に聞き取れない子どものインタビューを、字幕スーパーまで入れて放映する必然性が果たしてあったのか。この辺の検証をきちっとすべきではないでしょうか。それから、アナウンサーの盛り上げ方がこの番組ではかなり重要なポイントだったと思いますが、「揃っている。揃っている。」とか「早いぞ。早いぞ。」といった声掛けのワンパターン化があったのではないかと、という点が気になりましたので、次回、改善できるのであれば考慮してもらいたいと思います。

村田委員

私は参加20校36チームが多いのか少ないのか分かりませんが、県内の全学校数から見たら少ないのでしょうか。学校によっては何チームも出たり、人数の少ないクラスは寄せ集めで出場したりということが気になりました。スポーツ的に考えると、参加することに意義があるのですが、30人31脚は、1秒を争う競技大会です。出場資格がどう規定されているのかが気になります。私の地元の一関市からは山目小学校が出場しましたので、そこだけは興味があるのですが、その他は、走ってゴール走ってゴールの繰り返しですから、だんだんに飽きてきました。その中に、先生や子どもたちのインタビューが入って番組を盛り上げてはいますが、学校の関係者や参加児童の親は見ますが、一般の視聴者はどうなのかが気になりました。

それから、先生のインタビューでちょっと気になったのは、「このクラスの人たちはいい子ばかりです。」という表現をしたことです。それではこのクラス以外の子はどうなのか、このクラス以外の児童や父兄が見たらどんな感じ方をするのか気になりました。一様に褒めるのは良いのですが、もう少し先生方もインタビューを受ける時の言い方をもう少し考えてもよかったですと思います。

30人31脚は単調なゲームですので、それをドラマチックに盛り上げるのは難しいと思います。その中で、暗くなったグラウンドに父兄の皆さんが明かりを照らして、その中で練習をするというシーンがありましたが、それには感動しました。やはり、父兄・子ども・先生の一体感が無くては、この競技は良い成績が残せないと思います。その点で、絆や一体感が得られる競技だと感じました。

それから、生徒数が少なくても何とかして参加したり、タイムが悪くても、それはそれでよいと思うのですが、この番組からは、タイムが良いチームがやはり良い、という空気が感じられました。それは、以前優勝した先生の指導するチームが、今回も良いタイムを出すとなると、コーチによってタイムは違ってくるという印象が残りました。

これからの課題としては、もっと参加チームを増やして、参加することに意義があるという番組づくりをしても良いのではないかと感じました。全体的には、手に汗握る場面もあってとても楽しめました。今後、これをどう広めるかが課題だと思います。以上です。

松本委員

同じ年頃の子を持つ親としては、どうしても母親の目で見えるものですから、涙がウルウルと出るばかりで、感動しながら見ました。番組を見た感想と、実際に参加した生徒さんと父兄さんから直接聞くことが出来た感想とに分けてお話ししたいと思います。

番組としての感想は、導入部分の盛り上げ方、エンディングでは参加校の記録を一斉に紹介しておりましたが、大変良いと思えました。導入部分はワクワクしましたし、エンディングではジンとききました。高橋委員もおっしゃいましたが、開会式でのハピネス共済会の方の挨拶を流したのは、如何なものかと私も冷めてしまいました。ハピネス共済カップという大きな冠を付けていますから、どのように取り上げてさしあげたら良いのかと苦心されたところでしょうか、もう少しスマートな取り上げ方があったのではないかと、工夫の余地があったのではないかと思います。三橋アナウンサーの実況は、十分に盛り上げ役になっていたと思います。ただ、どうしても一連の流れが単調ですので、言葉を発するにも難しい部分があったと思います。恐らく、事前にチームの特徴やエピソードを十分に取材されていると思いますので、それを実況に十分に盛り込めたら、もう少しメリハリのある話し方になったと思います。でも、三橋アナウンサーの声や話のリズムは、十分番組にマッチしていたと思います。

それから、市・町 小学校の先生の学級というのはテロップで出ますが、その他に何人で走るのかも入れて欲しいですね。例えば滝沢第二小学校は39人という人数で走りました。39人で走ると30人で走るとでは、39人には大きなハンディがあると思います。それを敢えて39人で走る、恐らく補欠を出さずにクラス全員で取り組んだという誇りがあって、最後の先生のコメントの中にも「39人で走り抜いた」とありました。ですから、他のチームはどうだったのか、何人で走ったのか知りたかったです。

インタビューに関しては、泣きながら喋る子どものインタビューは如何なものかという意見もありましたが、私はそれほど不自然ではなくて、むしろ、泣きじゃくりながらそれでも話をする、あの場面はむしろあれで自然なのだろうと思いますので、それについて私は違和感を感じませんでした。

次に実際に参加された生徒さんと父兄の方のお話からお伝えしたいと思います。参加校が年々増えていますね。その中で段取りが大変そうだった、集合時間をずらして設定したようですが、それでもスムーズに行きかねたようすし、決勝トーナメントでは、準決勝・決勝で入場のし直しをさせましたが、負けてしまって、閉会式を待っている生徒さんたちのことを考えると、もう少しスムーズな運び方があったのではないかな、ということでした。それから父兄さんたちの意見では、運動会だと自分の子どもしか応援しないけれども、30人31脚はクラス全員の頑張りがないとゴールを目指せませんので、クラス全員を父兄みんな応援する。これは父兄にとっても貴重な体験です。子どもに、30人31脚をやる機会があったらまた出場したいかと聞きますと、迷わず「うん、出たい」と言ったそうです。親としてもやりたいというならば、またやらせてあげたい。内心、またやるのかと思った父兄もいたそうですが、やっていくうちに、どんどん結束力が高まるし、子どもたちが遅くなっていくのがわかるし、隣を走る足の遅い子に対する気配りもどんどん出来るのが分かるし。今の時代、子ども同士であっても、体をくっつけて何かするとか、大声を出して何かすること自体ありませんから、非常に良い経験をさせて頂いた、良い企画、良い番組です。という話を参加された生徒さんと父兄さんから聞きまして嬉しかったです。

それから、質問に後ほど答えて頂きたいのですが、小規模校は30人集まるのが難しいのでクラスを超えて人数を集めたチームはありますが、学年を超えてもよいものでしょうか。それから本校・分校の合同はよいのでしょうか。岩手県は小規模校が多いので、そういった点をクリアしなくては、大型校の参加数は増えても、小規模校は参加したくても出来ないという難しさがあると思います。それから、練習風景やエピソードを紹介していましたが、どういう基準で選択しているのでしょうか。そこも関心がありますので後ほど教えて欲しいです。以上です。

石井委員

30人31脚は、テレビ朝日としての発想の優れた慧眼だと思います。そして30人という人数は今の学校の1クラスを意識していると思います。

番組を通して、先生と生徒の絆が深まる様子が感じられました。そして生徒以上に先生が嬉しそうに見えるのが意外でした。普段、先生と生徒がどういうつき合いをしているか分かりませんが、30人31脚に取り組むことによって、教師としての喜びを取り返しているのかなと感じました。

この競技は、タイムを競って最後まで真面目にやるという、ある意味日本人的な競技ですが、あまりに真面目にやってしまうのではなく、2人3脚でも転んでしまってそれを笑うといったことが本来の姿としてあるので、真面目な教育へのアンチテーゼとしての一面もあって良いと思います。タイムを争うばかりではなく、遊びの部分も取り入れて、肩の力を抜いた番組作りも良いのではないのでしょうか。私のような団塊の世代は常に競争の中で暮らしてきたので、番組を見て意外性を感じたとかはないのですが、今の時代を考えるとあまりに真面目すぎる内容ではないのかなと思いました。この競技の最高タイムはどのくらいなのか、それをとことん追求しても面白いでしょうし、ちょっと遊びを強調しても楽しいと思います。いずれにせよ、最後まで楽しく番組を見ました。以上です。

小川口委員

子どもたちが一生懸命に何かをやるのはとても好きで、良い番組だったと思います。一つのこと集中することはなかなか無いですから、非常に良かったと思います。

岩手県内には小学校が471校あります。三橋アナウンサーが番組で「小学生の甲子園」と表現しましたが、高校野球はだいたい県内全校出場していますから、30人31脚は471校中の1割、50校は参加して欲しい、底辺を広げて欲しいと思います。教育の一環として捉えても良いくらいの競技ですので、もう少し参加して欲しいですね。

内容に関しては、三橋アナウンサーの実況は迫力がありリズムもありとてもマッチしてありました。最近の子どもたちは変に冷めていて、必死にならないことが美德のような風潮もあると聞きますが、大会に参加した子どもたちの汗を流して練習したり、嬉し涙や悔し涙を流す、一生懸命な姿を見るとまだまだ無限の可能性があるな、という羨望を持ちながら見ました。全国大会は岩手大会の比にならないほどの迫力があって、それもまた楽しみです。

大坊委員

地域に根ざすという目標を掲げる岩手朝日テレビとしては、最高の番組だと思っていて、父兄の一員のような気持ちで番組を見ました。子どもたちの涙と一緒に私も泣いてしまうような、感動のドラマが沢山あって、時間を忘れて見入ってしまいました。

最近、運動会でもゴール手前で皆で揃ってゴールするといったこともあるそうで、

そんな競争の無い社会を子どもたちに植え付けて果たしてよいのだろうかという疑問を、私は以前から持っていました。そういう時勢の今に、子どもと先生と一緒に頑張って競技に全力を尽して、練習を積み重ねてくる。そうすると終わったときに先生が子どもたちを褒める、その言葉は自然に出てくるものだと思います。苦勞し努力してきた結果、先生が自然に子どもたちを褒め称える、それはとても良い場面だなと思いました。子どもたちが感動したり感激したりすることがなかなか少ない時代ですので、教育の一場面としては非常によいことだなと思います。印象的だったのは、山目小学校の先生が「タイムはともかく、全力出し切った結果だから、胸を張って帰ろうぜ」と言って先生が生徒を称える、それがまた次に繋がると思いました。これからもこの競技は続けて欲しいと思います。以上です。

宮野委員

今回は、私の地元の本宮小学校が出場しまして、知っているお子さんも参加しましたので楽しんで番組を拝見しました。私の子どもは今春小学校を卒業しましたが、子どもが小学生だった時に、30人31脚に出ましようかと何度か言ったのですが、これに出場するということはとても大変なことなんです。まず、先生がクラスをひとまとめに出来る自信がないと出場できません。例えばクラスに1人か2人、運動神経が極端に悪い子どもがいると、横並びでと言いますか、その子だけ出さないという訳にはいけないので、参加できません。本宮小学校の例で言えば、運動神経が良い子が揃っていたのと、先生が非常にやる気のある「中堅の」先生であったということです。その先生がやると言えば手伝ってくれる先生もいるし、校長先生も許可してくれるという。これが2～3年目の先生であれば、参加したい気持ちがあってもそれを実行出来るだけの力が先生自身にない場合もありますから、本宮小学校は非常にタイミングが良かったのだと思います。

練習は本当に大変です。何が大変かということ、まず30人で50メートル走らなくてはいけないという使命感ですね。走りきることがまず第一条件ですから。それから出場することに意義のあるチームと、出場して記録を出すことに意義のあるチームとに分かれますね。本宮小学校が2位になったことも嬉しいのですが、子どもたちに聞きますと出場して最後まで走りきったことが良かったと言いましたね。今の子どもたちは変に冷めたところがあって、小学校高学年には学級崩壊まではいきませんが、様々な問題がありますので…。問題がないクラスが出場できるんですけどもね。問題があるクラスは出場できませんから。要するに問題のないクラスは少ないと言いましようか。問題の無いクラスで、先生と生徒、父兄が三者一体になって参加できたことは非常に良かったと思います。これはクラス対抗ですので、学校としては出場しろともするなとも言えない部分もあります。出るといえば、校長も教頭も教務主任もじゃあ協力しましょうということになるでしょうが、逆に言えば、そういった意味で出場校を増やすということは難しいのかもしれないかもしれません。それから見ていて思いましたが、参加校は盛岡地区が多いですね。津志田小学校などは何チームも出ていて。それこそ、学校全体で取り組んだのでしようが、第三者的には、各地区から参加校が出たほうが良いなとは思いました。

番組としてはルールの説明が最初にあるのが非常に良いなと思います。それから全チーム2本ずつ走りましたが、それは全部映っていたのかな、途中で転んだチームが1チームだけありましたが、他は無事に走ったのかなとちょっと気になりました。それからスタートからではなく、走っている途中から映ったチームもありまして、平等

という点からしますと、番組構成に変化がなくとも最初から最後まで走った映像を全て映して頂ければ良かったかなと思う点があります。番組構成云々に関してはあまり意見はありませんが、子どもに優劣を付けないという今の風潮に関して、中学校では成績の順位も発表しませんし、大坊さんもおっしゃいましたが、運動会でも優劣がつくといけないから最後は皆で手をつないでゴールしましょうというのは本当にある話でして、そういう中であって、私は、やはり子どもには競わせる時期があって良い気がするんです。ですから30人31脚は皆で頑張っって競うという点で非常に良いと思いますので、続けられる限り、続けていって欲しいと思います。非常に良い企画だと思います。以上です。

笠川委員

私も同じ年頃の子どもの持つ親としては、子どもたちの姿に熱いものを感じました。そして父兄の協力なしでは絶対に成り立たないと思いました。今は、学校で何か催すにしても、父兄の協力がなかなか得られないという現実もありますので、36チームも出場したこと自体が凄いなと思って私は見ていました。1時間番組の中に、予選36チーム、そして準決勝、決勝、先生・選手インタビュー、そして応援席の父兄と、まあよくこれだけのものを詰め込んだなという思いで見ました。ルール上では30人以上で走るということでしたが、殆どのチームが30人で走り、突出して人数が多い学校だけが紹介されているようでした。しかし、クラスは必ずしも30人ではなくて、31人だったり35人だったり。あるチームは走らなかった子どもがゴールで垂れ幕を持って立っていて声援を送っている様子を映していましたが、それ以外のチームにも何らかの事情で走ることができない子どもたちがいると思います。そういう意味で応援賞のような、理由はともかく、走れないけれども一緒に競技をしているんだという、競技に参加している子どもたちだけがメインではない、もっと大きな意味でのクラスの団結力が映るのではないかと思って見ました。それから親としての意見になってしまいますが、先生たちのインタビューの中で「子どもたち」とか「生徒たち」ではなくて、「この人たち」と表現しているのを聞いて、今時の先生と生徒の関係を垣間見た気がしました。番組的には楽しみながら、涙をウルウルさせながら見させて頂きました。以上です。

増子委員長

ありがとうございました。私も一言述べさせていただきます。

最初、私もこの番組は単調な競技を1時間も見るのはしんどいなと思って見始めたのですが、だんだんに引き込まれて、1時間という時間を意識せずに見終わりました。何故かと考えてみますと、一緒になって感動したり、泣いたり、一生懸命になったりという、子どもって本当はこうなんだという新鮮な驚きがあったということです。何故そんなことを私が特に感じるかというと、大学の新生にまずオリエンテーションすると、彼らはお互いのことを決して信用しない、絶対に心を開かないんです。殴り合いや取っ組み合いをしたことがあるかと聞くと、とんでもないそんなことはしたこともないし見たこともないと言うんですね。つまりそういう状況になる前に引いてしまう。転んだりすり傷を作りながら何かやるという体験をしていないんですね。ですからこういう体験は非常に貴重であって、今、教育の場にこういう体験をする場が無いんですね。テレビ朝日の企画で初めて体験できるというのは、やはり今の教育のあり方に致命的な欠陥があるんじゃないかという感想を改めて持ったのですが、その延長で言いますと、この子どもたちは最初からこうでは無かったと思います。競技に出

るまでに様々な変化があったと思います。多分クラスがバラバラだったのが一つにまとまってきて、その一緒になったことに子どもたち自身が感動しているというところがある。だからインタビューで子どもたちにものを聞く時に、ああいう単純な質問ではまずいと思うんです。つまりその過程がどうだったのか、あまり理屈っぽくなくてはいかんで難しいとは思いますが、こんなに変わったんだとか、遅くなったし、みんな気配りをするようになったとか、その変わり様が出てくるようなインタビューをしなくてはいけないと思います。そう思って見ていると、競技を1時間にまとめるのがやっとの状態である番組とは他に、このエピソード、過程だけを取り上げた番組が出来ないのかという気がするんです。我々が今質問をしているようなことを全部取り込んで、変わっていく過程を上手く番組として仕上げられないのかなと。つまりそういうものが出来れば、参加校が36校よりも増えてくるという期待も出来ますね。私は教育番組として、あまり理屈っぽくならず上手いこと出来ないかという期待があって、つい贅沢な注文を試してみたのですが、そんなところが私の感想であります。もっとご意見のある方はどうぞ。

村田委員 今、宮野さんの意見を聞いて分かったのですが、参加するのは大変なことなんですね。私、簡単に参加校を増やせと言いましたが、まず先生次第ということ、そしてクラスに落伍者がいれば駄目だということ。そして先生の言葉で「このクラスの人たちはいい子ばかりです。」と言った意味が宮野さんのお話で分かったんです、なるほど、いい子ばかりでないと成し遂げることが出来ないということ。逆にそれを考えると、これは大変なことなんだなという。本来の教育とはそういうものではないんですよね。ですから...非常に難しくなってきました、私はとても反省している点としては、参加校が増えると放送も大変になるんだなということに気づきまして。委員長がおっしゃったように、いかにして出場出来たかというドキュメンタリーも面白いと思いますね。作る側がよほど気を付けないと難しいですが、父兄と生徒と先生たちの葛藤のようものをサラリとまとめることが出来れば、それを見た他校がなるほどなと思うかも知れないし、そんな一石を投じるようなドキュメンタリーになるんじゃないかと思いますね。

増子委員長 そうですね、非常に難しいですね。どこの学校を取り上げるかと...。でも思い切ったってやったらどうでしょうか。

川崎社長 番組を担当しました中嶋ディレクターがおりますので、質問等もありますから一言申し上げます。

中嶋ディレクター

今回で大会は8回目になりますが、第1回大会から担当させて頂いております。唯一、この時は子ども心に戻れるような中での番組制作をやって参りました。毎回、イベントおよび番組を制作していく上での反省点を次回に工夫しながらやっている次第です。

先ほど質問があった点につきまして回答します。30人に満たないクラスについては、もう1クラスからの補充は可能です。学年を超えての補充も可能です。

川崎社長 中嶋は大変に公平さにこだわる男でして、番組制作者としては公平すぎる、全員が走る映像ばかりやってどうするんだ、もっと感動する要素を入れるとか、思い切って短くするところは短くしろと言ったんです。ですから先ほどの、全レースを紹介しているのかという質問に関しては、中嶋は参加をお願いしている以上、そこに物凄くこだわっておりますので、全クラス紹介しております。

昨年、今年とこの岩手大会を見ておりますが、演出は皆無、全く必要ありませんね。そのくらい自然体で1日展開しますね。委員長がおっしゃるように、この大会の番組とは別途、ドキュメンタリー番組を制作出来るかも知れません。高校野球のように、ニュースとして練習模様などを取り込んで良いのではという検討もしております。もちろん人や時間の問題はありますが、30人31脚は、テレビ朝日が全国大会として企画しておりますが、私は全国大会が無くなったとしても、岩手だけはずっと続けると言っているくらい、そのくらい価値のあるものだと思っております。

宮野委員 もしドキュメンタリー番組を制作するのであれば、あまり先生ばかりを取り上げないほうが好ましいですね。ある意味、売名行為になってしまいますから。

川崎社長 この番組の制作に関しては、タイムを競うほうに比重を置かず、クラスと一緒に練習を重ねていく様子や、足の遅い子がいてもそれを皆でカバーし、応援しながらやっていく姿、そういったものに比重を置こうという番組作りをしよう、とやっております。初期の頃には、タイムを競う、記録を作る、そういったところを中心としてしまっていたこともありましたが。

松本委員 取り上げ方次第で、記録にこだわる学校が出てくる一方、人作りに主眼を置いてそれが評価されるような。ですから、宮野さんがあまり先生を取り上げないで...とおっしゃいましたが、石井さんがおっしゃったように、先生方はそこで目覚めと思うんです。先生方もいろいろと大変な時代ですから、先生方に対するエールという意味でも、ここだけが評価の対象ではないということが、取り上げ方の角度を変えるだけで違ってきますから。

増子委員長 他にご意見はございますか。
それでは、次回の開催についてお願いします。

辻事務局長 次回は11月27日(木)にお願いします。
合評番組は毎週土曜9:30~9:45放送の県政番組「Yui」の11月1日放送分について合評頂きたいと思えます。ちなみに再放送を翌日曜の早朝6:45~7:00にしております。どうぞよろしくお願い致します。

それから、明日、10月23日に秋田朝日放送で、系列番組審議会代表者会議が開催されます。今回は宮野委員に出席して頂き、放送番組全般に関する意見を発表して頂きますので、各先生方からご意見を頂戴して集約して持って参りたいと思えますので、よろしくお願い致します。

増子委員長 それでは自由にご発言をお願いします。

小川口委員 番組改編時の期末期首スペシャル番組は、バラエティ番組が多いのですが、もう少し落ち着いた番組、例えば昔の映画とか、そういったものを編成して欲しいです。また今、オーストラリアでラグビーのワールドカップが行われておりますが、放送も紹介もあまりされておられません。CS放送やテレビ東京系ではやっておりますが。スポーツニュースだけでも、是非そういったものも取り上げて欲しいです。

石井委員 最近、面白い音楽番組が少なくなっている気がします。音楽の趣味趣向の分散化も一因としてあるとは思いますが。テレビには、万人が口ずさめる音楽を提供する義務があると思います。今更こんなことを言ってもすぐ状況が変わるとは思いませんが。一言申し上げさせていただきました。

宮野委員 ご意見ありがとうございます。私も会議に出席をすることが決まりまして原稿をまとめました。石井さんがおっしゃったことの究極なのですが、家庭におけるテレビの存在感に焦点を当てて話すつもりです。要するに、一般庶民がテレビを考えた時、昭和30～40年代のテレビと今日のテレビのあり方の違い、それは家族のあり方の違いでもあるのですが、それに伴うテレビ番組の変化に対応していつているのかについて話そうと思っておりましたので、石井さんのご意見はその中の大きなコンセプトになると思いますので、そういったことをメインに話させて頂こうと思っております。岩手朝日テレビは系列局の中では最後発局ですので、局のPRもしようと思っ、実は今回は県政番組「Yui」に関して、地方に於ける行政とマスコミの関係、そんなところを3分くらいにまとめて話そうと思っております。

増子委員長 それでは明日の代表者会議、よろしくお願ひします。
番組審議会を終了します。ありがとうございました。

7.審議機関の答申または改善意見に対してとった措置
特になし

8.審議機関の答申または意見の概要の公表
10/23付 朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。

系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。

9.その他の参考事項
特になし

10.配布資料
11月度単発番組編成予定表
10～12月タイムテーブル